

令和3年8月24日

関係者各位

一般財団法人栃木陸上競技協会事務局

感染拡大下における主催競技会の開催可否判断について

日頃より、当協会の活動にご理解とご協力をいただき感謝申し上げます。

当協会ではこれまで、一定水準の感染状況下においても、国や中央競技団体、専門機関等が示す方針等を踏まえながら、選手の成果発表の機会を最大限に確保し、陸上競技の振興はもちろんのこと、青少年の健全育成や県民の体力向上、そして地域振興に資することができるよう、年度内に予定されておりました各種の主催競技会を開催してまいりました。参加されました各団体や選手個人からは感謝の意や労いの言葉をいただき、光栄を感じますとともに、本県における益々の競技振興と来年開催を予定する国体の成功に向けて、使命感を強めてまいりました次第です。

一方で7月下旬以降、全国で爆発的に感染拡大が進み、本県も8月20日から、国による緊急事態措置対象となる運びとなりました。同日から3日間、カンセキスタジアムとちぎにて予定されておりました第94回関東陸上競技選手権大会については、感染リスクに対する一定の懸念がありましたが、関東7県を代表する各選手の貴重な活躍機会の場となるのはもちろんのこと、来年の本県開催国民体育大会のリハーサル大会であり、事業運営を見直し改善を図るためのまたとない機会となることから、関東陸協を始め関係各機関の見解を基に、可能な限りの対策を講じて開催するに至りました。いわゆるコロナ禍とされる昨年度来、当協会では感染対策を講じながら各種の主催大会を催し、その開催実績は延べ52日間、参加延べ人数は2万人を超えるものとなりました。そうした中、大会を通じて感染が拡大した事例は確認されたことがなく、そうした実績が開催判断の根拠のひとつとなりました。そして、宇都宮市をはじめとする各関係機関のご協力とご支援をいただきながら、無事成功裏に大会を終えることができました。ここに改めて、関係の皆様にご礼申し上げます。

しかし現在、国内における感染状況は、変異株の影響等により深刻化の一途をたどり、「感染状況制御不能」「災害レベルの猛威」と評される様相となりました。医療体制は全国的に「崩壊目前」であり、栃木県も例外ではありません。感染者だけでなく、他の疾患を持つ人々の診療にも影響を及ぼし、まさに人命に関わる事態となっています。

現在の感染拡大を抑えるためには、個人による基本的な感染対策や、自治体による施策だけでは極めて困難であり、社会全体で人流を抑制することが何よりも不可欠です。

そこで当協会では当面、現在の深刻な状況を脱するまでの期間、全国や関東などの上位大会に直接つながる予選会などを除き、主催大会を中止または延期とする方向で対応することといたします。人流抑制に向けて最大限に協力し、できるだけ早く、再び安全に大会が開催できる状況に戻すことができるよう努めてまいります。

関係の皆様におかれましては、このたびの方向性についてご理解をいただき、ご協力くださいますようお願いいたします。

以上